

なみ

9月号
vol. 139

署会
協

タバコの吸い殻は捨てないで下さい



特集

にたりもん

「では何を…」
玉出中1丁目付近にて撮影

にしなりもん

西成にもまだまだ発掘されていない文化資源・社会資源は存在するはず。これら西成産のモノやコトを「にしなりもん」と名づけ、その由来やエピソードを辿っていきます。

西成の沖縄

大阪のリトル沖縄といえ、多くの人が大正区を思い浮かべるだろう。大正駅前には沖縄料理店もあり、関連する食料品店もある。ある文献※によると、1935年にはすでに「北恩加島町（現・大正区）で850余戸、6500余人、鶴町・南恩加島町・泉尾町（いずれも現・大正区）であわせて数千戸、天六・本庄・三津屋（いずれも現・北区）で450余戸・3700余人」の暮らしがあった。その一方で「西成区においても『今宮界隈』に350余戸・6000余人の集住」があったという。しかし現在、西成の沖縄を知る者はあまりいない。沖縄料理店や関連する商店は西成ではほとんど見かけないし、思い当たるのは西成沖縄県人会館ぐらい。西成に住む沖縄出身者

の暮らしはどうなっているのか。沖縄県人2世の玉城さんにナビゲートを依頼し、西成の沖縄の「今」を探ってみた。

沖縄もんお断り

気さくに西成の沖縄を話せる方として紹介していただいたのは、具志堅興市さん。西成区松2丁目でお好み焼き・鉄板焼「興市」を営む。興市さんは、親が今帰仁村から西成に移り住んだ2世にあたる。親が大阪にやってきた1930年代、沖縄では長男以外は出稼ぎをせざるを得ない状況で、重化学や紡績などの工業が急速に発展し多くの人手を求めていた大阪にやってきた。さぞかし金の卵として、工場や企業はあたたかく迎え入れて

くれたのだろうと思っていたが、実態はそうではなかったそうだ。西成には国頭郡の本部町や今帰仁村の出身者が多く、大阪に安定した仕事があったというよりも、同郷のツテを頼りにまっずは移住した。しかし大阪に来て仕事を探すとんでも、沖縄男性には「酒癖が悪い」「気性が荒

い」というイメージがあり、「紡績工場など大きな工場に就ける者は多くなく、3人に1人ぐらいが日雇仕事で生計を立てていた。『沖縄もん』『朝鮮もん』お断り』という飲食店もけっこうあった。入店禁止はいまだ許されることではないが、酔うとバカ騒ぎしトラブルを起こす姿はよ

く見かけたそうで、「飲食店をやる人もいたが、沖縄を看板にすればたまり場となり、商売が成り立たなくなるのを恐れて、避けたのかもしれない。これは西成に限った話ではないだろうが。」と興市さんは語る。

し、イメージが変わりはじめた。最近では三線（琉球三味線）や空手、舞踊なども広く知られるようになった。ちょうどそのころから大正区で沖縄関連店が急増したそうだ。興市さんの少年・青年時代は三線や空手、エイサーなど沖縄を看板として出す教室もなく、親父や親戚がやっているのを見て興味を持った子どもたちが学ぶ、というスタイルだったそうだ。直接語られることはなかったが、沖縄は隠すもの」という当時の空気感をうかがい知ることはできた。そんな空気のなかで、沖縄県人会がどんな活動をしていたのか興市さんにお聞きしようとする、毎週木曜日午後7時30分から開かれる三線会に招かれた。

西成から点々と

三線会に足を運ぶと、仲宗根和徳さんと具志堅宗和さんがあたたかく迎えてくれた。趣旨を



興市さん



西成沖縄県人会館

話すと、アポなしだったにも関わらず、西成沖縄県人会の第2代会長の岸本恵治さんと呼んでくれた。

西成沖縄県人会の結成は1946年で70年以上の歴史がある。2008年には自前の会館も新設し、いまでも400人近くの会員はある。ただ、岸本会長は会の存続を危惧していた。「会員は1世と2世が大半で、3世は2人。70歳以上が3割以上とどんどん高齢化し、会員数の

減少に歯止めが止まらない。いまの活動は正月の新年互例会ぐらい。人が集まればいろいろやるが、高齢化で集まるのも難しくなっている」。西成を中心に活動していた同郷組織は、県人会のみならず「関西今泊郷友会」「関西今帰仁村人会」などもあったそうだが、運営がままならず現在は休会中。再開の目途もたっていない。

1世・2世が若かりし頃は、沖縄から出てきたばかりの若者の仮住まいに旧の会館を利用したり、お見合いパーティーをやったり、同郷者の企業を紹介したり、県人会の運動会を開催したり、沖縄と大阪をつなぐ架け橋役を担い、新天地での暮らしを支えていたが、いまではそんなニーズはほとんどない。また、生活の基盤を築くと各地に点々と引越す者も多いそう。関西今泊郷友会は、1923年に西成で発足した今泊共済会にルーツを持つが、会員が各地に広が

る中で、名称に「関西」という冠をつけた。興市さんも同級生200人のうち、いまでも西成に住んでつながっているのはわずかに数人程度。分散すると沖縄の風習や文化に触れる機会は減る。本土で生まれ育った3世が県人会につながるのには難しいが現実だ。

これからの西成の沖縄

岸本さんの話もひと段落したところで、ビール片手に三線の演奏を披露してくれた。小学生の永遠くんも具志堅さんや仲宗根さん達と一緒に大人顔負けの演奏を披露してくれた。永遠くんは沖縄にルーツがあるわけではない。実家のたこ焼き店にお客さんが三線を



岸本会長

持ってきたのがきっかけで興味を持った。会に通うようになって約1年、現役大学生の要さんを師匠にどんどん三線にはまっているそうだ。そんな姿を、具志堅さんは「若手のホープ。もっといろんな人が三線やエイサーに触れてくれたら」と語っていた。郷土意識を中心に相互扶助的に団結していた時代から、沖縄の文化風習でゆるくつながり、沖縄が西成に溶けていく、これからの「西成の沖縄」を垣間見た気がした。

とは言いながらも、お酒がは



永遠くんと要さん

いると、今帰仁村の北山高校が今年の沖縄県大会でベスト4に入った話や沖縄県人会館を新設した時の不動産取得税の話、興南高校の甲子園決勝と県人会の石垣島旅行がバツティングした際になぜか試合中は機体点検で飛行機が離陸しなかった、などなど、よもやま話に花が咲き、楽しいひと時を過ごせた。

沖縄は本土復帰や基地問題など、時の政治に翻弄されている。報道でしばしば目にする話題だ。だから県人も運動的な側面があるのかと思いきや、そんな話はほとんど聞けなかった。しかしこんな言葉が耳に残っている。「沖縄問題を議論したこともない。ただ、選挙にいく親父の背中を見て。自分も選挙に子どもを連れて行っていた。選挙権を持つことの大切さは教えてもらった。基地反対か賛成か。これは内緒。左派・右派に分かれて、言い争ってもしょうがない。ただ、それが沖縄のためを考えているこ



三線生演奏

※中西雄(2015)「第3章 大阪市西成区における沖縄出身者の「同郷性」」…定着過程と県人会活動の事例からURP『先端的都市研究』5

とは理解している」。このような政治との向き合い方に、沖縄問題は沖縄人だけの問題？ 沖縄問題は沖縄と本土の問題ではないの？ という問いかけを感じた。それはまた、西成が抱える様々な問題とつながった。

文責…田岡秀朋

虎 緩

おう えん だん



第16回

子育てに取り組む人・団体・施設を紹介して、子どもを支えるネットワークをどんどん広げていきます！



「いつでも、どこでも、みんなで子育て」が合言葉 「わが町にしなり子育てネット」

子どもが遊びたくなるきっかけづくり

筆者が子どもの頃は、怪我がなければ小学校のグラウンドや空き地で遊んでも怒られませんでしたが、最近は小学校の校門が閉鎖され、公園での禁止事が多すぎてボール遊びすらできません。そんな中で子育てネットは子どもに外遊びのきっかけを提供する活動(子育て応援活動)をしています。子ども自身が遊びたくなるきっかけの提供を心がけています。

まず、西成児童館が閉鎖(2006年5月)した翌月から子育てネットと登録団体「建物を持たない西成児童館」が「松通公園あそびの広場」を立ち上げ、

また、「びよちゃんネット」をはじめ様々な子育て世帯の集い、サークル活動など当事者同士がつながるネットワーク活動も継続的に実施されています。

横断的な活動

子育てネットは今年度「知る→変わる→動く」やを合い言葉に、子どもの参加をまちのしくみに組み入れる「子どもにやさしいまち」を実現する戦略をリアルに考えていくそうです。様々な子育て・子どもの活動を継続できるのは、将来を見据えるこうした戦略と施策や制度、組織にこだわらない諸団体の横断的な活動のおかげではないかと感じました。そしてその核には「本当に支援の必要な家庭は制度の狭間にあつて、なかに地域との関係が少なくて孤立している」と語る関口さんの認識が共有されているのだと思います。 文責:沖田一志

わが町にしなり子育てネット事務局

大阪市西成区梅南1-2の6 西成区子ども子育てプラザ内
tel / fax : 06-6658-4528
H a : <http://haginei2.pro.tok2.com/>
松通公園あそびの広場 <https://nisminari-jidokan.jp/>
あそびパーク☆プロジエクト <https://ja-jp.facebook.com/asobopark/>



松通公園あそびの広場



(上)びよちゃんネット(下)子育ての集い



こども元気まつり

年に6回程度開催しています。さらに、2010年には「あそびパーク☆Project」という西成区内の公園で子どもの「あそび場」をつくる移動型の取り組みを開始します。これまでに山主どり公園(西成公園(津守)、玉出西公園など)で行いました。今年5月26日の長橋公園での「こども元気まつり」でも出店やイベントが盛りだくさんで、なかでも子どもの権利条約をテーマにしたクイズや「おとなに言いたいこと」を滑り台の上から大人に伝えるワークショップは好評でした。9月1日には西成公園で「みずあそびまつり」を開催します。

びよちゃんバンク(家庭訪問型子育て支援事業)

子育て・子育て応援隊が家の中に入り保護者との会話を通じて信頼関係をつくり子育てネットのネットワークを活かして家庭の困りごとを支援します。2011年度に内閣府のモデル事業として始まり、その後は西成区の独自事業として官民協働で継続。2014年度以降は行政の予算が打ち切られましたが子育てネットの独自事業として活動継続中です。支援対象の家庭は関連機関や地域から紹介されること多く、ネットの活動への関わったことが支援につながった家庭も少なくないそうです。

[田岡秀明] 翁長知事が逝去された。保守の重鎮がなせ辺野古基地移設反対?と当初思ったが、保守・革新を超えた「オール沖縄」を旗印に本土にモノ言う姿勢が、今回の取材を通じてスツと腑に落ちた。

[佐々木敏明] お前たちは本当に人なのか、翁長さんはいい続けた。哀悼、そして無念。蟬むくろいずれゆく果てわが浄土 炎熱を連れること近づく火星

[沖田一志] Miracast 知ってますか? テレビやプロジェクタの HDMI にアダプタを挿すだけでノート PC の画面を簡単に表示できます。Windows10 の WiFi ありの PC が必須条件ですが、お手軽で便利です。

お風呂さんものがたり

『西成区 銭湯』と検索すると、20件以上がヒットする。その数は他の地域と比べても群をぬいて、「西成は銭湯多いなあ」という声をよく聞く。そこで、それぞれの銭湯の特徴やオーナーのこだわり、歴史などを取材し、西成区の銭湯の魅力に迫っていく。少し銭湯に行きたくなるコーナー。

六軒目 天竜湯

花園町から少し北にある鶴見橋商店街に入って2つ目の角を右へ曲がり、しばらく北上して旧長橋第5保育所の角を右に入ったところ、細い道を曲がったところにある天竜湯。電気風呂/超音波気泡風呂/超音波気泡ハーバルバス/打たせ湯/水風呂/ハーブスチームサウナが併設され、ダークなタイルが硬派な外観。

「お風呂屋さんのものがたり」第6回は天竜湯の代表、角屋幸昭さんにお話をうかがった。

角屋さんは2代目で、初代の父親が亡くなり30歳のときに受け継いだ。大正時代からあった建物を55年前に父親が購入。角屋さんは、小さいときから釜焚きや風呂掃除といった手伝いをしていた。高校卒業後、仕事は違うところでしたいと思っていましたが、自分の意見は言えなかったという。「きれいに掃除」「きれいなお湯」「コッコツまじめに」と昔から父親に言われていたことは、今でも忘れている。

利用客は1日平均100



佐藤 順子(さとう じゅんこ)さん
にしなり隣保館スマイルゆ〜とあい内の「喫茶なび」を切り盛りする佐藤さんは、鹿児島県で生まれ育ち、結婚を機に西成区に來られました。喫茶「なび」は、毎日いろんな人たちが利用する憩いの場。お客さんもスタッフも優しい人ばかりで、毎日の仕事が楽しく充実しているそうです。
健康にも気をつけて自転車には極力乗らず、毎日買い物ついでに街中をウォーキング。目標はこれからも健康を維持しながら喫茶の仕事をつづけること。今回は「すぐとりの素敵」なおとなりさんの紹介でした。



6月 2週間

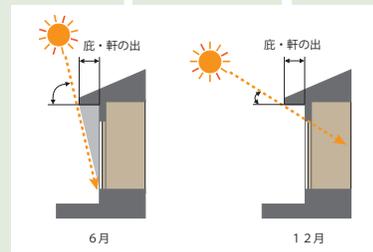
ハナレバナレになった人とまち。くらしの窓から、紡ぐヒントを探してみる。

ひさしやのきさき

この夏の曇さには流石に参った。帰宅すると、これもかど日中に溜め込んだ家の熱気が襲いかかり、クーラーで一気に冷やすものの、翌朝にはまたうだる曇さに立ち向かう日々。大きな目で見ると電気ではとても太陽に敵わない。なんとか自然と上手く付き合う方法はないだろうか。そこで建物の中では控えただけ、頭の上の縁の下の力持ちの話。

季節に応じて室内への日光の量を調整してくれる庇や軒先も、太陽が高い夏の時期には光を遮り、太陽の低い冬の寒い時期には、うまい具合に光が庇や軒先をよけて部屋の中を暖める。特にエネルギーを使わずに、その存在だけで室内の温度調節のために力を発揮する。また軒の下では縁側や露台を置いて涼んだり、ちょっとした近所との触れ合いの場を演出してきた。

家の改装や修理のときにも一考の価値はありそう。ただし、建物の広さ制限への影響と延焼・類焼の元になりやすいので素材と大きさには注意しなくてはいけない。この点は法律に基づいた判断が必要なので、専門家と相談しながら、上手く快適にくらす方法を探してみよう。(安田拓也)



庇・軒による日射遮蔽効果のイメージ

人ほどで、昔に比べると3分の1程度に減少している。年齢層は60歳以上が多く、女性客が男性客よりも多い。新しい利用客が少なくなっているが、常連客で何とか経営をしている。

角屋さんは、「利用客が『ええお湯やった』と気持ちよく帰りはることが何よりも幸せ」と語った。しかし心配事もある。利用客の体調である。一人暮らしの方が多く、風呂場で倒れることがあるそう。人が多かったときは他の利用客が声を掛けてくれるが、今は角屋さんがごまめに様子を見ている。

経営の難しさをうかがうことができ。昔、大阪府下では2500軒以上の銭湯があったが、今では400軒程度になっている。修理費がとても高くなる。安くて5〜10万円、高ければ200万円以上もする。修理したくてもできないのが現実。そこで、角屋さんはなんと床や

タイルの修理を自分でおこなっている。また、利用客を増やすための工夫として、天竜湯では昔から週に1回ハーブを湯船に入れていた。他とは少し違った天竜湯ならではの特色だ。

最後に角屋さんは、昔ながらの銭湯の形を残すべきだと語った。昔の銭湯は設備を増やしてサービスを充実させて、お客さんを呼ぶという発想だった。しかし今は普通に家の風呂で満足している人が多く、あまり功を奏さなかったという。だから、現状をみると難しいかもしれないが、現代のお風呂屋さんの姿を模索しつつ、番台や庭、池、松の木といった昔の風情を残していくのがベストなのだろう。

天竜湯は父親から昔ながらの形を受け継ぎ、今でもコッコツとまじめに利用客のことを日々思いながら経営をしている。一度、行ってみて昔ながらの風潮を味わうとともに、ハーブの湯船を体感してみたいかがだろうか。

住所：西成区長橋1-6の30
電話：06-6631-2273
営業時間：14時00分～24時30分
定休日：第2・4土曜日
料金：大人440円・中学生300円・小学生150円・幼児60円

[谷口円] 最近メガネをゲットしました。こだわりが強い&強度近視なのでフレーム選びは難航し、結局40軒以上メガネ屋をはしご。メガネの面白さを知って、メガネ屋になりたくりました。



[寺島史視] 8月号でやってみたいことをいくつか載せたが、全部は達成できなかった。でも、花火・祭り・BBQは達成。9月になり、まだまだ暑い日が続きそうだが、これからも楽しみを見つけていきたい。



[西田吉志] 先日、孤独死を改めて考えさせられる出来事があった。防止できなかった。それでも早い内に発見できた。と自分に言い聞かせる。でも、発見時の光景やおいと後悔は頭に残るよね。



[安田拓也] 今夏は奈良の寺巡りと葛城山へハイキングに行きました。奈良のお寺はやっぱり伸びやかで重厚感があり、山は避暑地として最適で川の水は最高に気持ち良かった。ぜひ。



「社会を知って」「社会に踏み出す」
そんな L's College Plus の取り組みを
紹介していきます。

vol.5

結婚式体験とテーブルマナー



通信 からすアルファ

7月12日にシティプラザ大阪でテーブルマナー講座を受講しました。ただし、今回の舞台は普通のレストランではなく、「結婚式に招待されたら」がテーマなので式場です。結婚式なのでドレスコードもあり、いつもと違う雰囲気です。緊張感も一瞬あります。緊張と美味しいお食事を目の前に、ついマナーを忘れていつも通りに食べ始めてしまうこともありましたが、楽しく美味しく学ぶことができました。

テーブルマナーを学んだあとは結婚式体験。チャペルを見学して、参加者席に座ったり、バージンロードを歩いたり、芳名録にも名前を書いたり、高砂の席に座ってみたり、ケーキカットの真似をしてみたり。結婚式に出席したことがない方も多く、緊張のあまり字が震えたりすることもありましたが、また一つ大人の経験を積み重ねることができました。そして、ちょっと結婚式への憧れが膨らんだ1日でした。

文責：松尾 有希生

大阪市の吉村市長が、「政令指定都市で最下位」という全国学力テストの結果を受けて、達成状況に応じて教員を評価し、学校ごとの予算に反映させると言い出した。とんでもないことである。学力テストの結果を、都市間競争の勝ち負けの問題だと思っていないだろうか？ 大阪には他の市町村よりも様々な困難を抱えた子どもや大人が暮らしている。テストの結果はそうした都市問題の一面を示しているのだから、都市行政全体を見直すビジョンをこそ提示すべきである。何をみて政治を行っているのだろうか。

日本の教育は戦前のあり方を反省して政治から距離を置くようになってきた。戦前のように、国のために命を捧げることを美徳としてはならない。唐突に聞こえるかもしれないが、「生産性を高めよ！」という今回の政策のメッセージは教員を通じて生徒たちにも伝わるはず。命を捧げるのも生産性を高めるのも国(大阪市)のためならば、根にある思想は結局、同じだ。

日本国憲法は人間を幸せにするために行政が行われなければならないと言っている。今回の政策はその憲法の理念に反してはいないか？ 私は怒っている。
(寺本良弘)

皮算用 胸算用

にしなり隣保館の館長が日々の出来事について胸のうちに皮算用していることを語っていくよ。



いい湯かげん

「自分ごと化」で政治の風景を変える

世論調査で過半が反対し、国会周辺をデモが席卷し、ネットも炎上しているのに、議会が強行採決して一丁上がり。安倍政権の風物詩になった感がある政治風景だ。橋下市長が都構想を住民投票で決するとしたのは一つの案だったかもしれないが、「強行」という悪印象はついて回った。大阪の識者にはカジノ誘致も住民投票にしたら良いなんて意見もあるが、唐突感拭えない。直近では、吉村大阪市長が、学力テストの結果を教員のボーナスや学校予算に反映させる方針を表明され、ネット上で反対キャンペーンが盛り上がりつつある。市長と議会が世論に耳を傾け、こんな愚策を思いと

どまってくれたら良いのだが、そうならない場合打つ手はあるのか、よくよく考えてみたい。
そんな折、松江市の市民団体のユニークな試みが新聞で報道された。テーマは島根原発3号機の新規稼働の可否。無作為に抽出された市民による「住民協議会」を立ち上げ、原発推進と反対の専門家を招いて意見を聞いたり、市民同士の議論を深める過程を公開することで、大きな決定権を持つ市長と議会とは別の意思形成を対比させようという試みだ。何か陪審員とか裁判員制度を想起させるが、面白い取り組みだ。この住民協議会の名称が「自分ごと化会議」だと知って、これは良い

とボクは膝を叩いた。
強行採決する側も横暴だが、反対するデモ側もエキサイトしているように見えてしまう。そこで「自分ごと化会議」だ。市民運動というのは「まず誰より始めよ」で、「自分ごと化」のキックオフをするのが役割。多様化した市民の意思を形成するには、政治参加という「自分ごと化」のラウンドテーブル(住民協議会)にバトンタッチするのが良い。議員は、議会と住民協議会の「複線」で丁寧な意思形成を図る役割を演じることになる。前述の「学力テスト問題」なら、市民運動が醜になり、無作為抽出で委員を選出し、様々な関係者の意見を聞き、ボーナスや学校予算への反映の可否を問うだけでなく、学力や教育向上の多様な議論を公開し、意思を形成していくということになる。
ボクも参加している「自治フォーラムおおさか」の場で、武直樹大阪市長、無所属も、たった一人の市民でも、A4用紙一枚で、市議会の委員会に「陳情書」、本会

議に「請願書」を提出できる制度を活用してくれたら、一人会派の自分が、他会派議員へのロビー活動をして意思を形成していくと提唱されていたが、主訴は自分ごと化会議に通底している。あまり認知されていないが、大阪市長が総合区に移行した場合の「総合区常任委員会」や「区政会議と自治区協議会」にも、同じような志向がある。
まるで、暑すぎる夏のように、不快指数の高い国会、大阪市会だが、市民運動や野党の発想の転換で、ちよつとは涼しい秋を迎えたものだ。キーワードは「自分ごと化」だと思った。



富田一幸

人間のしあわせ、福祉のあり方、そして新しい社会の結びつきを求めて、これからも「いい湯かげん」のテーマ探しに出かけます。



[若松司] 今年度の後半、また大きな変化がやってくるようだ。今のままじゃいけない。仕事の仕方を変えないと。とにかく机の上を片付けないと。もっとシンプルにできないかな。



[山村裕太] 高校野球の季節ですね。今年は甲子園に髪形が坊主じゃない高校が出場しているの、応援してしまいます。優勝して野球部=坊主という古くさい概念をぶっ壊してほしいなあ。

地域の縁を心でつなぐ



松崎ごい

心の時間

先日、ある本を読んできて、まずと名言に出会いました。

「どれほど相手を信頼していても、100%信頼してはだめですよ。98%にしなさい。

あとの2%は相手が間違えた時の許しのために取っておきなさい」。

お釈迦様の教えに四苦八苦があります。その中に愛別離苦(愛する者と別れなければならない)があり、生老病死など八つの苦しみの中に人間関係の苦しみが二つ入っています。人は昔から人間関係に悩み苦しんできません。仏説無量寿経には「独生独死独去独来(人はひとり生まれ、ひとり死し、ひとり去り、ひとり来る)」という厳しい一節があります。元来、人は孤独です。孤独だからこそ人間関係を大切にして来たのです。100%信頼出来る人と出会える人は幸せです。しかし突然の交通事故、地震、病などで100%信頼した人が去ってしまい、ひとり残されることもあります。98%信じる「心」と2%の許す「心」とは、残された人が絶望しないで生きる為の大切な知恵の言葉に聞こえます。

松向寺 通法

辛さを乗り越えて、大切なことを伝える

8月15日から17日にかけて、鶴見橋中学校の教師・生徒、地域関係者と宮城県の前橋で勉強をしてきた。震災当時、教頭として中学校を避難所に活動をしていた方、小学校6年生で被災した現在19歳の方、大川小学校に通学していた娘を亡くした教師の方、被災者を受け入れたホテルで働いていた方の話を聞いた。どの人の話からも、震災当時の情景が浮かび、報道された以上に様々な経験や、悲しく苦しかったこと胸に強く響いた。

自身はなんとか難を逃れたものの、それぞれが身内や友人・知人を亡くし、生まれ育ったまちを瞬時に失った。そんな辛い経験は誰にも話したくなかったようだ。しかし、もう二度と大切な人をなくすことがないように、生まれ育ったまちがどんなまちであったのかを、自分たちが伝えないと誰もわからないから、震災から7年5ヶ月経った今でも取り組まれている。今回学ばせてもらったことを、何らかの形で伝えていきたい。

COUNT 2.99

隣保館などで事業を行う中で感じたことをつぶやいて、西成のまちづくりに役立てていきます！



ナビ編集長 寺嶋公典



ゆ〜とあい

にしなり隣保館

にしなり隣保館「スマイル ゆ〜とあい」は、地域コミュニティ全体が抱える課題の解決をめざす民設民営の福祉施設です。日々悩んでおられる困りごとはありませんか？お悩み解決のためにできることをいっしょに探しましょう。

なび9月号(vol.139)

発行日:2018年9月1日(創刊日:2007年1月1日)

発行:株式会社ナイス

住所:大阪市西成区長橋 3-6-33

電話:06-6563-1156

E-mail:info@nice.ne.jp

url:http://www.nice.ne.jp/

編集長:寺嶋公典

編集:沖田一志、佐々木敏明、岡田秀朋、

寺島史視、西田吉志、安田拓也、山村裕太、

若松司(あいうえお順)

イラスト:hidarimak デザイン:谷口円

facebook: <https://www.facebook.com/navi.nishinari/>

facebook

